

## コアプログラム研究会（平成28年度）

### 第7回

日時 2017年3月7日（火）16:00-17:30

場所：地球研セミナー室3・4

講演タイトル：地域社会における金融機関の役割：未来社会への投資

講演者：山元新司氏（京都銀行 公務・地域連携部）

第7回コアプログラム研究会の講師は、京都銀行の山元新司氏です。今回は、地球研が第三期に進めている学際・超学際的研究の推進に対し、「金融機関の視点からの研究連携」および「未来社会への投資」についてお話をいただきます。コアプログラム・プロジェクトは、実践プロジェクト・研究基盤国際センターとの強い連携の下で、個別の課題や分野によらず、様々な地球環境問題に適用が可能であり、多様なステークホルダーがその成果を利用でき、総合地球環境学としての基礎と汎用性を持った研究をおこないます。特に第3期中期目標期間に於いては、「社会との協働による地球環境問題解決のための理論・方法論の確立」を目指し、その研究成果が地球環境問題の解決を目指す国内外の研究機関・研究者や社会の多様なステークホルダーと共有され、地球環境問題の解決に向けて真に有効な方法論となっていくことを目指します。

### 第6回

日時 2017年1月12日（木）16:00-17:30

場所：地球研セミナー室3・4

講演タイトル：

「農地 GHG 削減手法を用いた農作物のエコブランド化  
（食べるだけでエコ・クルベジ COOL VEGE）」

----環境保全型農業を通じた地域開発-----

講演者： 柴田 晃

（地球研客員教授）

(立命館大学 OIC 総合研究機構サステナビリティ学研究センター客員教授)  
第6回コアプログラム研究会の講師は、地球研客員教授・立命館大学 OIC 総合研究機構サステナビリティ学研究センター客員教授の柴田晃氏です。柴田氏は、企業経営の豊富な実績や、日本バイオ炭普及会 (JBA) などの環境関連 NGO の実績・経験も豊富で、民間とのパイプも多く、現在は地球研の FEAST プロジェクトにも参加されています。今回は、地球研が第三期に進めている学際・超学際的研究の推進に対し、民間の視点からの研究連携についてのお話も交えて、近年話題の農地太陽光発電等のお話をいただきます。

## 第5回

日時：2016年11月7日(月) 13:30-16:30

場所：総合地球環境学研究所 セミナー室3・4

議題

- 1) 3つのコア F S の作業仮説、実践プロジェクト・研究基盤国際センターとの具体的な連携内容: 陀安・近藤・上須
- 2) コアプログラムの mission とコアプロジェクトの具体的進め方: コア P D
- 3) 研究基盤国際センター・実践プロジェクト・実践プログラムからのコメント:  
(センター長・実践 P L ・実践 P D)

## 第4回

日時：2016年10月4日(火) 13:30-16:30

場所：総合地球環境学研究所 セミナー室3・4

趣旨：第4回研究会では、未来世代など研究者以外のアクターと研究者による知識の共創に注目し、特に地球環境問題に直面するアクターの間で知識や認識のずれ(ギャップ)が生じる原因やそれを克服する方法の理論的基礎について、以下の論点を意識しつつ検討します。

- a: 知識や認識のずれはどのような地球環境問題で生じやすいか。また、それはなぜか。
- b: どのような地球環境問題や関係者の関係性ならば、ずれを克服しやすいのか。

また、それはなぜか。

c: ずれの克服とは、地球環境問題にあってはどのような状態を指すのか。

また、科学の知を開放するオープンサイエンスアプローチや、暗黙知を可視化するための情報技術およびアクター間の立場を超えた対話をうながす技法の具体像についても、地球環境研究への適用可能性を念頭において議論します。

#### プログラム

13:30～13:35 谷口真人 コアプログラム研究会趣旨説明

13:35～14:25 安部 浩 (京都大学)「私たちはなぜ未来世代に対する義務を負うのか？」

14:25～15:15 王 戈 (科学技術振興機構)「知識共創を巡る雑学の旅 —我々は何を語っているか—」

15:15～15:30 休 憩

15:30～16:30 近藤康久「社会課題解決型研究のアクター間における知識情報ギャップの可視化と克服：コア FS の進捗状況と今後の方向性」

<http://www.slideshare.net/yaskondo/fs-61125908>

\*実践プロジェクト (船水P、奥田P等) からのインプットを含む)

### 第3回

日時：2016年9月5日(月) 13:30-16:30

場所：総合地球環境学研究所 セミナー室3・4

#### プログラム

1. 13:30-13:35 谷口真人 コアプログラム研究会趣旨説明

2. 13:35-13:40 上須道徳 コア FS：知恵を備えた科学—趣旨説明

3. 13:40-14:10 スチンフ (大阪大学)「グローバル化時代における地域持続性と帰属意識、かかわり方について」

4. 14:10-14:40 原圭史郎 (大阪大学)「フューチャー・デザイン」(仮)

5. 14:40-15:10 Srinivas Hari "Intrapolation and Extrapolation: The Dilemma of Global Policy Making"

6. 15:10-15:40 草郷孝好「協働する実践研究による地域共創形成の可能性」

7. 15:40-16:00 実践プロジェクトからのコメント

石川智士（地球研）、奥田 昇（地球研）

8. 16:00－16:30 全体ディスカッション

### 趣旨

第3回研究会の目的は、地球環境問題に関する様々な価値の相違と創造について議論することです。国際社会や科学者・研究者は客観的で科学的な知見に基づく価値を持っている（問題を認識している）と信じています。一方、国や行政、企業、地域住民もそれぞれに正当性があると信じる価値観があり、その間には違いが（多くの場合）あります。他方で、地球環境やグローバル経済の変化は地域社会に大きな影響をもたらしています。現実には、政府や行政が何か対策をとろうとしても、逆に何もしなくてもコンフリクトが生まれ、場合によっては状況が悪化することもあります。つまり、双方が何らかの形で交わって、新たな価値を生みながら課題をより適切に設定することが求められます。

本研究会では、人文学が考える地域の視点、地球環境学やサステナビリティ学における言説の変遷、国際的な環境理念と政策の現場におけるジレンマ、地域における研究者の在り方などのトピックから話題提供をいただき、地球環境学における価値創造や課題設定の方法論に資する知見の創出に努めたいと思います。

## 第2回

日時：2016年7月5日（火）13:30-16:30

場所：総合地球環境学研究所・セミナー室3・4

プログラム

13:30-13:35 谷口真人（地球研）

「研究会のねらいについて」

13:35-14:00 陀安一郎（地球研）

「同位体を用いた環境トレーサビリティーについて」

14:00-14:20 森誠一（岐阜経済大）

「環境トレーサビリティーとプロジェクトの地域交流体制」

14:20-14:40 山田誠（地球研：遠藤プロ）

「ステークホルダーと科学データを繋ぐデータ共有手法の開発」

14:40-15:00 RUPPRECHT, Christoph David Dietfried (地球研：MCGREEVY プロ)

「目的から考えるトレーサビリティーの方法論」

15:00-15:20 後藤祐之介 (農林水産消費安全技術センター)

「食品のトレーサビリティーと安心社会」

休憩

15:30-16:30 コメント及び総合討論

コメンテーター・ディスカサント

- ・羽生淳子 (地球研)
- ・MCGREEVY, Steven R. (地球研)
- ・奥田昇 (地球研)
- ・中野孝教 (地球研名誉教授)

趣旨

地球環境問題は、加害者－被害者関係が明確に定義できる公害問題と異なり、その構造が複雑であることが根幹にある。その枠組みにおいては、研究者だけではなく、行政や企業、住民といったいろいろなステークホルダーが、環境のとらえ方に関して議論し、課題を設定するところから検討するトランスディシプリナリティーという考え方が必要である。その中で、いろいろなレベルでの因果関係やつながりを示すトレーサビリティーに関する考え方が、ステークホルダー間の共通理解の基礎となる「信頼」を築く上で重要になってくると考えられる。環境におけるトレーサビリティーという考え方を通して、科学的なアプローチが社会の信頼に寄与するためにはどのような仕組みが必要か、また、その方法論の有効性はどこにあるのかについて議論したい。陀安プロジェクトにおいては、特に同位体比を用いたトレーサビリティーに着目した研究を行うが、本研究会では、もう少し広い観点を持った議論を行い、プロジェクトの進め方について意見をいただくとともに、コアプログラムで構築する方法論としてのトレーサビリティーについて議論したい。

## 第1回

日時：2016年7月5日(火) 13:30-16:30

場所：総合地球環境学研究所・セミナー室3・4

議題

- 1) コアプログラムミッション
- 2) 実践プロジェクト・研究基盤国際センターとの連携方法
- 3) コアプログラム研究会の進め方

コアプログラムは、実践プログラム・プロジェクトと研究基盤国際センターとの強い連携のもと、個別の課題や分野によらず、様々な地球環境問題に適用が可能であり、多様なステークホルダーがその成果を利用でき、総合地球環境学としての基礎と汎用性を持った研究をおこないます。特に第3期中期目標期間に於いては、「社会との協働による地球環境問題解決のための理論・方法論の確立」を目指し、その研究成果が地球環境問題の解決を目指す国内外の研究機関・研究者や社会の多様なステークホルダーと共有され、地球環境問題の解決に向けて真に有効な方法論となっていくことを目指します。